

## 絵本の力

高田 康子

柳田邦男先生、はじめまして。私は、幼かった頃から絵本が大好きで、毎晩寝る前に、母に絵本を読んでもらっていたことを覚えています。実は私には、絵本の恥ずかしい思い出があります。誰にも言えず、柳田先生にお話するのが初めてです。それは、佐藤守作絵「うんこができるまで」食べものの旅」という絵本です。私は、中学生になるまで、私の体には、多くの小さな小びとがいて、せっせと働いてくれていると思い込んでいたのです。そして、小びと一人くらい、便に紛れて出てくるのではないかと、ずっとはらはらしていたのです。でも、一度も小びとに会うことはな

く、理科の学習で初めて、小びとはいないと知りました。最近、もう一度絵本を読み返してみたら、消化や吸収等に関する専門用語が丁寧に書かれていました。幼かった頃は、絵本の絵が印象的で、内容までは理解できなかったのだと思います。恥ずかしいばかりです。でも、この絵本の勘違いがきっかけで、私は理科に興味をもち、自然科学の世界に飛び込みました。母は、色々な本を読んでくれましたが、人体や虫歯、生命の歴史の本が大好きでした。大学では生命科学を学びましたが、幼い頃読んだ絵本が、私の生き方の原点になっていると思います。しばらく、絵本の魅力を忘れていましたが、私が小学校の教師として、働き始めた時に、再び絵本の不思議な力を感じる経験をしました。教師一年

目の私が、どのように児童に自分の思いを伝えたらよいかと、悩んでいた時、絵本のメッセージとして伝えたらよいと考えました。絵本の読み聞かせを通して、友達との関わり方、人権、命の大切さ、自然環境等、児童と一緒に考えながら読みました。児童は、お互いに感想や考えを皆に伝え合うようになりました。さらに「僕は小さいころ絵本を読んでもらったことはなかったけれど、絵本は楽しいね」という児童もいました。

そんなある時、いつも友達に乱暴ばかりする児童が、図書の時間に、仲間を数人呼んで、自分が絵本を読み聞かせるという出来事がありました。いつも乱暴ばかりする友達が、優しい声で絵本を読み始めたのです。読み終わった後、私の真似をして、本の感想を聞いていました。そんな意外な一

面をみた友達は、「本当は優しい人だね」と印象が変わりました。そして、それから間もない授業公開の休み時間に、友達の妹でまだ二歳前後の女の子の前行き、女の子の目線に合わせ、座り込んで絵本を読み始めたのです。彼の優しい一面をみる事ができました。彼は、「先生、僕は幼稚園の先生になりたい」と話してくれました。現在、二十歳になった彼とは連絡をとっていませんが、彼を引き付けた絵本の力は、私の想像をはるかに超えています。絵本は、自分の心を穏やかにして、周囲も優しい気持ちにする、魔法の力がありますね。

数年後、私は結婚し、二児の母になりました。ゆつくり優しい声で、本を読むと、親子共にゆったりとした気持ちになります。

絵本の読み聞かせは奥深いですね。読み聞かせるほうも、どんな反応があるのかとわくわく、ドキドキしたりして、楽しくなるのです。私は、改めて絵本との出会いが、人生や心をより豊かにし、充実したものにしてくれると確信しています。これからも、私の人生のお供に、そして子供達との大切な子育ての時間に、楽しく過ごしていきたいと私は思います。柳田邦男先生、絵本の力を信じて、これからも多くの人に絵本を読み聞かせていきます。それでは、また私の体験を聞いてくださいね。